

# 電力先物活用事例のご紹介

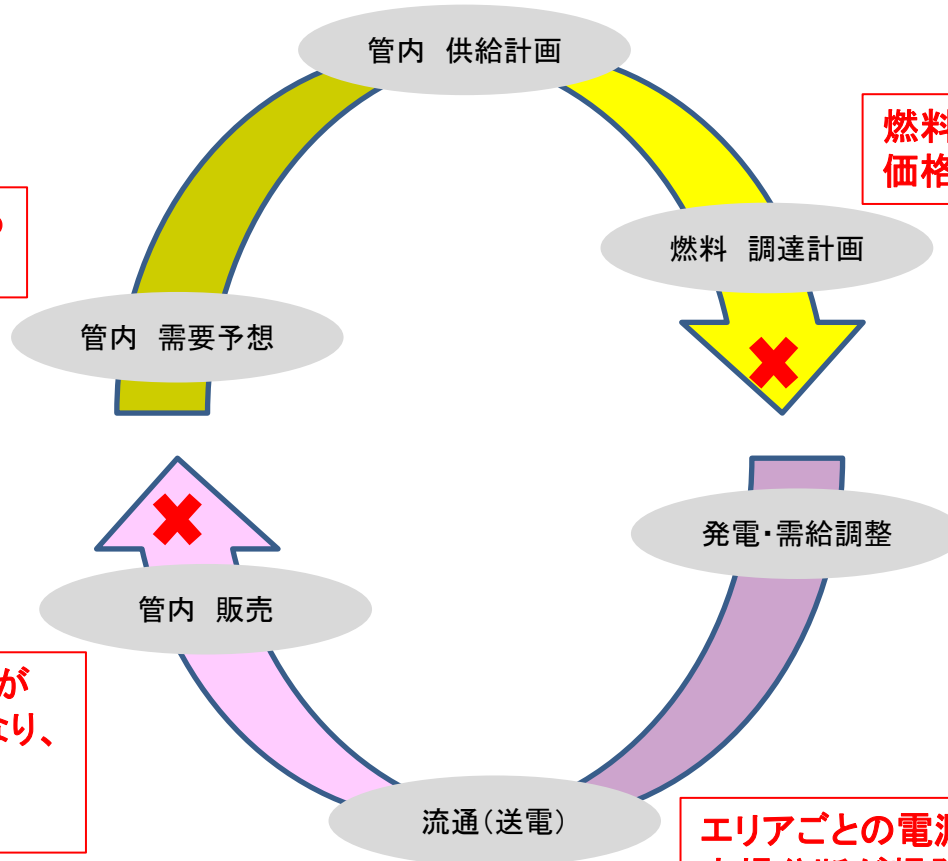
イーレックス株式会社  
河村 廉

# そもそも、なぜ流動性のある先物市場が必要なのか？

どれだけ供給力を確保すれば良いのかがハッキリしないことによる不確実性の増大

需要家離脱などによる不確実性増大

燃料調達がスポットに偏ることで、価格、量ともに不確実性が増大



再エネ増加の為、経済性より調整力優先のオペレーション

販売競争により販売動向が市況に左右されるようになり、販売量、販売マージンの確保が困難になる。

エリアごとの電源格差が顕在化して市場分断が頻発。

計画と実績のギャップ(不確実性)を和らげるために、(燃料・電力)先物市場を活用した柔軟な運用計画、需給調整が求められる。

## 電力先物を活用する目的

- ・調達リスクを平準化する。

⇒実需の範囲で電力先物を活用して調達原価を安定化させる。

- ・取引したいタイミングを選べるようにする。

⇒いつでも売買できる電力先物で状況を見ながらタイミングよく取引する。

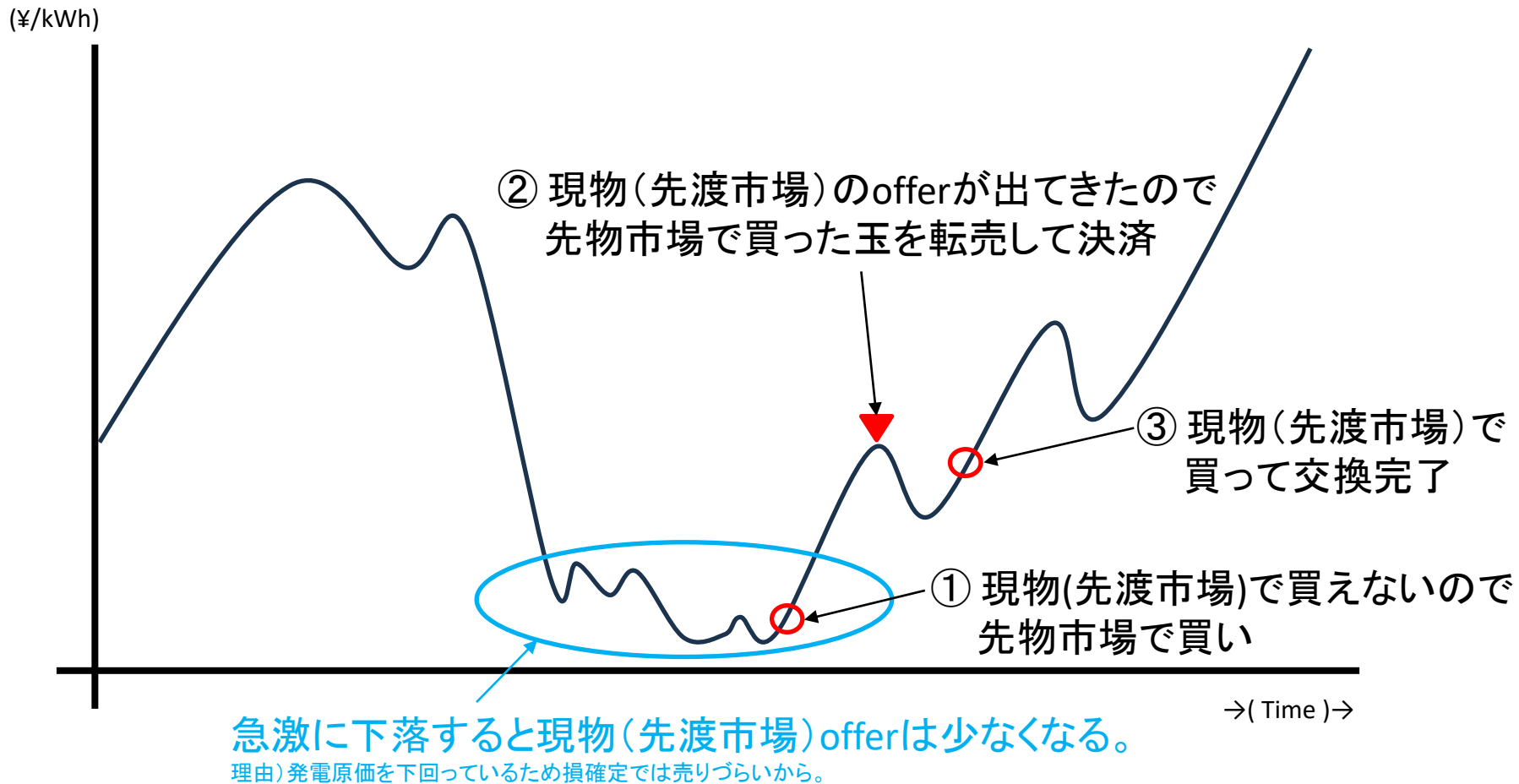
- ・相対協議にも活用する。

⇒先物市場機能を利用して相対協議での提案の幅を広げる

# 具体的な事例 1) 急激に下落した局面で電力先物を活用した例

(先物市場の長所)

「多様なプレイヤーがいる先物市場ではどの価格帯であっても約定機会がある。」

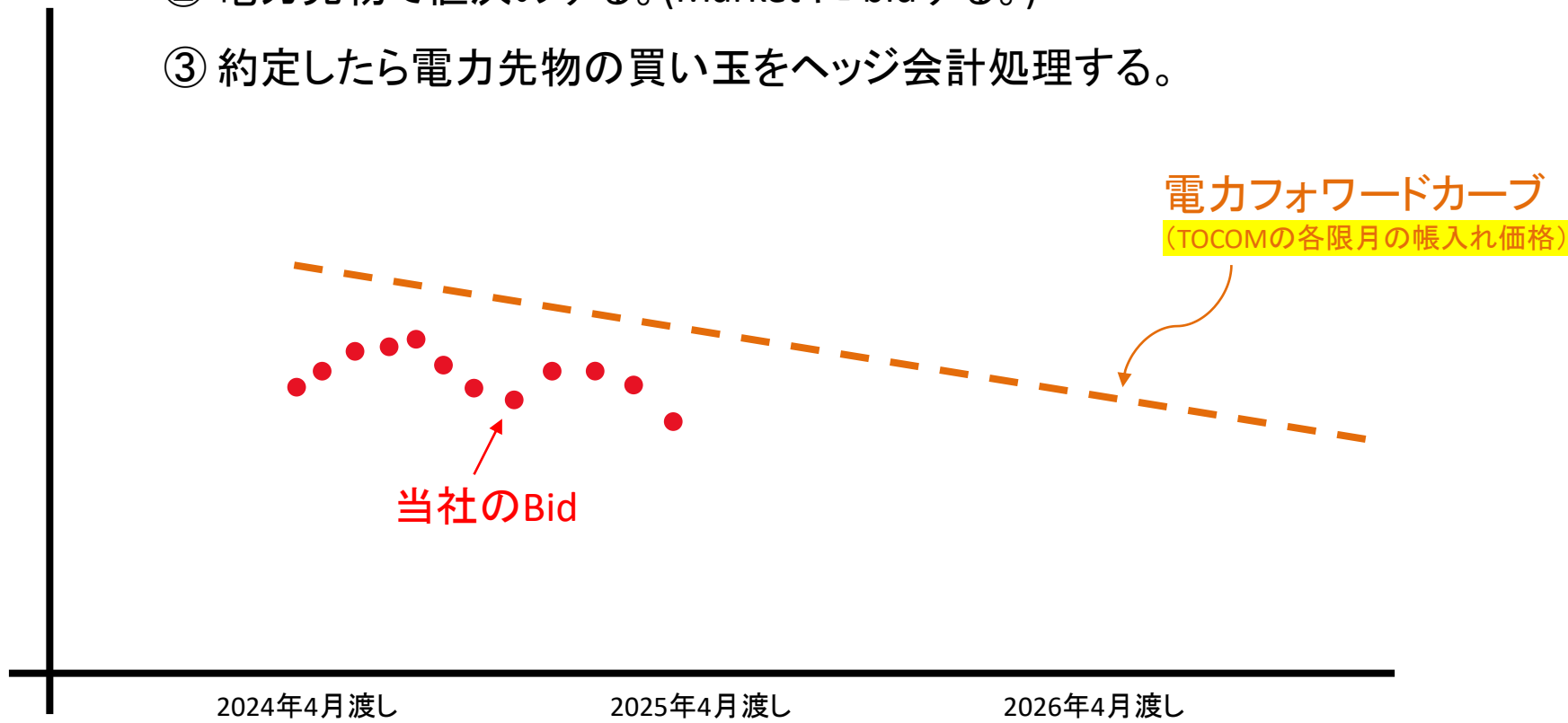


## 具体的な事例 2) 複数年卸契約に電力先物を活用した例

長期契約では売り手と買い手の価格目線がなかなか折り合わないので  
ひとまず、市場連動価格で長期契約して価格はアトで決めていく。

- ① JEPX価格連動の価格条件で長期のベース商品を契約締結。
- ② 電力先物で値決めする。(Market に bidする。)
- ③ 約定したら電力先物の買い玉をヘッジ会計処理する。

(¥/kWh)



売り手(offer)と買い手(Bid)の値決めオーダーがバックストップとなることで、多様な参加者が参入して流動性に厚みが出る。

